☆年間第18主日（7月31日）の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読　（コヘレトの言葉 1 章 2 節・2 章 21-23 節）

コヘレトは言う。 なんという空しさなんという空しさ、すべては空しい。 知恵と知識と才能を尽くして労苦した結果を、 まったく労苦しなかった者に遺産として与えなければならないのか。 これまた空しく大いに不幸なことだ。 まことに、人間が太陽の下で心の苦しみに耐え、 労苦してみても何になろう。 一生、人の務めは痛みと悩み。 夜も心は休まらない。 これまた、実に空しいことだ。

第二朗読（使徒パウロのコロサイの教会への手紙 3 章 1-5, 9-11 節）

皆さん、あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、 上にあるものを求めなさい。 そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。 上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい。 あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、 キリストと共に神の内に隠されているのです。 あなたがたの命であるキリストが現れるとき、あなたがたも、キリストと共に栄光に包まれて現れるでしょう。だから、地上的なもの、すなわち、みだらな行い、不潔な行い、情欲、悪い欲望、 および貪欲を捨て去りなさい。 貪欲は偶像礼拝にほかならない。 互いにうそをついてはなりません。 古い人をその行いと共に脱ぎ捨て、造り主の姿に倣う新しい人を身に着け、 日々新たにされて、真の知識に達するのです。 そこには、もはや、ギリシア人とユダヤ人、割礼を受けた者と受けていない者、未開人、スキタイ人、奴隷、自由な身分の者の区別はありません。 キリストがすべてであり、すべてのもののうちにおられるのです。 神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。

福音朗読（ルカ 12 章 13-21 節）

　そのとき、群衆の一人が言った。「先生、わたしにも遺産を分けてくれるように兄弟に言ってください。」イエスはその人に言われた。「だれがわたしを、あなたがたの裁判官や調停人に任命したのか。」そして、一同に言われた。「どんな貪欲にも注意を払い、用心しなさい。 有り余るほど物を持っていても、人の命は財産によってどうすることも できないからである。」それから、イエスはたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作だった。金持ちは、『どうしよう。作物をしまっておく場所がない』と思い巡らしたが、やがて言った。『こうしよう。倉を壊して、もっと大きいのを建て、 そこに穀物や財産をみなしまい、こう自分に言ってやるのだ。「さあ、これから先何年も生きて行くだけの蓄えができたぞ。 ひと休みして、食べたり飲んだりして楽しめ」と。』しかし神は、『愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか』と言われた。 自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者はこのとおりだ。」

朗読解説　―主任司祭より皆様へ―

　夏とはいえあまりに暑い日が続いています。コロナ感染症も毎日過去最多の人数を記録し続けています。当教会でも感染によって苦しんでおられる方がおられますので、一刻も早い軽快を祈りましょう。
明日から 8 月に入ります。7 月 29 日より教会のエアコン交換工事が始まりました。今後は消費電力が少なく、エアコンの効きが良いミサが過ごせるでしょう。しばらくはご不便をおかけします。
今日のミサではこの世の財産にとらわれすぎない生き方が求められています。「上にあるものを求めよ。そこにはキリストがおられる」のです。暑い中ですが、聖書のみ言葉に耳を傾けてみましょう。

第一朗読　（コヘレトの言葉 1 章 2 節・2 章 21-23 節）

「なんという空しさ。すべては空しい」と虚無感に満ちた言葉ですが、これは神を畏れない、虚栄に満ちた人生のことを言っているのです。現代世界の経済至上主義の私たちの生活は人生の豊かさ、目の前の楽しみを追求するあまり多くの目に見える弊害、特に貧しい人々を搾取した生活に満ちています。またこのような生活は人間のみならず世界の自然環境をも破壊し、そこに住む多くの生物をも苦しめています。そうではなく神との親しさに生きることこそ、充実した人生に生きることなのです。

第二朗読（使徒パウロのコロサイの教会への手紙 3 章 1-5, 9-11 節）

私たちは洗礼によって罪に死に、またキリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求め、地上のものに心を引かれないようにしなさいとパウロは勧めています。すなわち地上のもの、どん欲に代表される偶像崇拝は決して神の命を受け継ぐことはできず、神の栄光に包まれることはないのです。かえって、古い人をその行いとともに脱ぎ捨てた私たちは造り主の姿に倣う人を身に着け、真の知識に達するとパウロは言っています。地上的なものの誘惑に騙されないようにしなさいとパウロは勧めています。

福音朗読（ルカ 12 章 13-21 節）

財産を蓄えることは人類の願いの一つですが、それによって多くの誘惑が生まれます。その財産によって私たちの生活の保障が生まれると勘違いするのです。イエスは今日のたとえの話で、私たちが勘違いしないよう勧めを与えておられます。「有り余るほどのものを持っていても、人の命は財産によってどうすることもできない」と言われるのです。財産に埋もれて死ぬばかりだといわれるのです。では何が必要なのでしょうか。財産が悪いのではありません。それを上手に活用する、つまりその財産を使って天の国に入る

方法を考えるのです。貧しい人たちの助けとなるように使うとか、よい仕事を立ち上げて人々の善のために役立てるのです。今世界では多くの富がごく少ない人々に集中し、富の偏りが出来ています。その富の偏りの解消のために働くことも大事なことだと思われます。私たちも富を集めるだけでなく、愛の業のために使う必要があるのです。

尾瀬沼　大江湿原　2022 年 7 月

P.S.

今週の 8 月 6 日から聖母被昇天祭の 15 日まで、日本カトリック平和旬間です。この期間特に戦争、紛争地帯、人権弾圧にあっている人々、戦争の犠牲となって亡くなった人々のためにロザリオの祈りを唱えるようにしましょう。

カトリック足立教会
主任司祭　野口重光